

年 間 授 業 計 画

科 目 名	ビジネス・マネジメント		単位数	2 単位	学年・学科	2 学年 国際ビジネス 科		必修		
教科書名	教科書番号（出版社） 教科書名 7 0 6 （実教出版） ビジネス・マネジメント				副教材名					
科 目 の 目 標	(1) ビジネスにおけるマネジメントについて実務に即して体系的・系統的に理解するようにする。 (2) ビジネスにおけるマネジメントに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 (3) ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスにおけるマネジメントに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。									
学習内容と進め方	講義形式による授業を行う。									
学 習 の 留 意 点	ビジネスにおけるマネジメントについて自ら学び、主体的かつ協働的に取り組むこと。									
月	単 元	予定 時数	具体的な学習内容	評価の観点			備考（評価項目）			
				1	2	3				
4	Introduction	2	ビジネスにおけるマネジメントの概要を理解する。	○			・『ビジネス・マネジメント』は、新しいビジネスの創造という活動を軸にして、さまざまな科目と相互に関連する総合的な科目であることを理解している。 ・ビジネスにおけるマネジメントの概要を理解している。 ・マネジメントの意義と課題について、ビジネスの適切な展開と関連付けて考えている。 ・ビジネスにおけるマネジメントについて自ら学び、企業を取り巻く環境を踏まえ、マネジメントに主体的かつ協働的に取り組んでいる。 ・ビジネスの創造について理解している。 ・組織のマネジメントについて企業における事例を理解している。 ・組織のマネジメントに関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、組織の管理と活性化の方策を考案して実施し、評価・改善をおこなっている。 ・組織のマネジメントについて自ら学び、組織の一員として組織の適切な管理と活性化に主体的かつ協働的に取り組んでいる。 ・経営資源のマネジメントに関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、経営資源の管理と活用の方策を考案して実施し、評価・改善をおこなっている。 ・経営資源のマネジメントについて自ら学び、経営資源の適切な管理と効果的な活用により主体的かつ協働的に取り組んでいる。 ・ビジネスと社会について理解している。 ・企業の秩序と責任に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、企業の秩序の維持と責任を果たす方策を考案して実施し、評価・改善をおこなっている。			
5	1 マネジメントとは何か 2 ビジネス・マネジメントとは	1 2	マネジメントの意義と課題について自らの考えをもち、ビジネスの適切な展開と関連付けて学ぶ。	○						
6	1章 ビジネスの創造 1 ビジネスの創造と社会 2 事業創造の基本 3 事業機会の発見 4 戦略と競争優位 5 事業創造の計画と実行				○					
7			マネジメントについての意識と意欲を高め、組織の一員として他者と協働する力を身に付ける。			○				
8	2章 ビジネスの組織化 1 組織のマネジメント 2 分業と調整 3 組織の設計		1 3	ビジネスの創造について理解する。 経営資源のマネジメントについて企業における事例と関連付けて理解する。 経営資源のマネジメントに関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、経営資源の管理と活用の方策を考案して実施し、評価・改善をおこなう。	○					
9	4 組織内部のマネジメント 5 取引関係のマネジメント	1 6	経営資源のマネジメントについて自ら学び、経営資源の適切な管理と効果的な活用について、他者と協働する力を身に付ける。	○						
1 0	3章 経営資源のマネジメント					○				
1 1	1 財務的資源のマネジメント 2 人的資源のマネジメント 3 物的資源のマネジメント 4 情報的資源のマネジメント					○				
1 2			4章 ビジネスの変革 1 ビジネスの拡大 2 多角化の動機 3 多角化企業のマネジメント 4 事業の転換	1 3					○	
1		1 0	ビジネスの創造と展開について自ら学び、プロジェクトを適切に管理し、ビジネスの創造と展開について、他者と協働する力を身に付ける。	○						
2	5章 ビジネスと社会 1 社会における企業 2 企業への支援 3 企業の責任 4 企業への牽制					○				
3										
	※定期考査 （前期末・学年末・考査返却）		4							
評価方法	(1) 下記規準および上記備考欄の評価項目に基づき観点別評価とする。 (2) 定期考査に基づく評価、日常の状況からの評価を実施する。									
評価の観点	観点	趣旨								
	1. 知識・技術	ビジネスにおけるマネジメントについて実務に即して体系的・系統的に理解し、ビジネスの様々な場面で役に立つマネジメントに関する知識を身に付けている。								
	2. 思考・判断・表現	ビジネスにおけるマネジメントをはじめとした様々な知識などを活用し、ビジネスにおけるマネジメントに関する課題を発見するとともに、企業活動が社会に及ぼす影響を踏まえ、経済社会の動向、マネジメントに関する理論、データ、成功事例や改善を要する事例など科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく解決することについて考えている。								
	3. 主体的に学習に取り組む態度	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自らマネジメントについて学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的にに関わり、経営資源のマネジメント、新たなビジネスの創造と展開などに責任をもって取り組もうとしている。								
評価基準	1. 知識・技能	A ビジネスにおけるマネジメントについて総合的に理解すると共に、関連する技術を身に付けることができる。 B ビジネスにおけるマネジメントについて個別的に理解すると共に、関連する技術を身に付けることができる。 C ビジネスにおけるマネジメントについて実務に即して総合的に理解しておらず、関連する技術を身に付けることができない。								
	2. 思考・判断・表現	A ビジネス・マネジメントの課題を発見し、科学的な根拠に基づいて、課題への対応策を考案して実施し、評価・改善することができる。 B ビジネス・マネジメントの課題を発見し、課題への対応策を考案することができ、評価・改善することができる。 C ビジネス・マネジメントの課題を発見できない。課題への対応策を考案することができない。								
	3. 主体的に学習に取り組む態度	A ビジネス・マネジメントについて自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組むことができる。 B ビジネス・マネジメントについて自ら学び、ビジネスの創造と発展に取り組むことができる C ビジネス・マネジメントについて自ら学ばない。ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組むことができない。								